

たんちよう

JAくしろ丹頂
広報誌

vol.125
2018.3

くしろ丹頂

営農計画樹立協議



白糖支所

CONTENTS

- 営農計画樹立協議終了 ————— 1
- くしろ冬まつりで根釧牛乳の無料試飲
日本獣医生命科学大学 学外実習受入
平成29年度 根釧合同JA役員研修会 ————— 2
- 平成29年度 役員道外視察研修報告 ——— 3～6
- 普及センターだより ————— 7
- JA北海道大会パネルディスカッション — 8～9
- JAグループ通信 ————— 10
- 理事会報告 / 生乳生産実績 / 退職者 ——— 11



団体優勝!! 丹頂Aチーム(松基、手塚恵、不藤)
1/20 管内JAボウリング大会

平成30年度 営農計画樹立協議 終了する

～将来展望・経営ビジョンにたった責任ある計画の遂行を!!～

1月15日から1月末にかけ、4地区で平成30年度営農計画樹立協議を実施



本 所



音別支所



幌呂支所

新年度におかれましても組合員の皆様方が家族・社員総意のもと、目標達成に向け将来展望・経営ビジョンにたった責任ある計画の遂行をご期待致します。

酪農・畜産経営の確立と生産基盤の強化へ向け「労働」「環境」「経済」を意識した農業生産活動が今後更に必要となって参ります。

酪農・畜産情勢は、TPP及び日EU・EPA等国際貿易交渉により農畜産物の輸入自由化への動きは加速しております。労働力不足や後継者問題、農協改革による影響、地域コミュニティの維持等が喫緊の課題となっております。

生乳生産の集計

(単位：t%)

	平成29年実績 (クミカン年度)	戸数	平成30年計画 (クミカン年度)	戸数	対比	29年度見込み (4～3月)	30年度見込み (4～3月)	対比
鶴居	35,102.2	39.0	36,520.3	38	104.0%	35,417.5	37,023.1	104.5%
幌呂	26,384.9	32.0	26,153.4	32	99.1%	26,270.7	25,999.3	99.0%
白糠	20,313.4	44.0	20,836.8	43	102.6%	20,204.4	21,070.3	104.3%
音別	16,920.6	26.0	17,385.2	23	102.7%	16,875.4	17,586.1	104.2%
J A 計	98,721.2	141.0	100,895.7	136	102.2%	98,768.0	101,678.8	102.9%

飼養頭数の集計

		経産牛頭数	育成牛頭数	乳用牛頭数	馬	和牛
鶴居	30年度期首	4,147	3,108	7,255	1	159
	29年度期首	4,017	3,032	7,049	1	151
	差	130	76	206	0	8
幌呂	30年度期首	3,051	2,299	5,350	19	165
	29年度期首	3,116	2,248	5,364	16	145
	差	△ 65	51	△ 14	3	20
白糠	30年度期首	2,572	1,810	4,382	37	145
	29年度期首	2,611	1,864	4,475	32	144
	差	△ 39	△ 54	△ 93	5	1
音別	30年度期首	2,015	1,490	3,505	24	129
	29年度期首	2,233	1,604	3,837	15	196
	差	△ 218	△ 114	△ 332	9	△ 67
合計	30年度期首	11,785	8,707	20,492	81	598
	29年度期首	11,977	8,748	20,725	64	636
	差	△ 192	△ 41	△ 233	17	△ 38

消費者とのふれあいを大切に「根釧牛乳」PR



根釧牛乳をPRする對木賢雅部長（左）と
松下雅幸副部長

2月3、4日、釧路市観光国際交流センターで「くしろ冬まつり」が開催され、釧路地区農協青年部協議会は、根釧牛乳の無料試飲及びJA2MPダウンロードキャンペーン等を行いました。

当JA青年部の對木賢雅部長は、「アメリカがTPP復帰の可能性を示唆するなど先行き不透明な酪農情勢ではありますが、私達が出来ること、高品質な生乳生産を継続し、消費者とのふれあいを大切にしたい。」と述べ、来場者からも「おいしい・飲みやすい」と大変好評でした。

日本獣医生命科学大学 学外実習受入



釧路空港での実習生受入式

2月14～23日、日本獣医生命科学大学の2年生13名が来所し、各農場で10日間にわたる実習に入りました。受入農場の皆様、大変ありがとうございました。

受入農場の皆様、大変ありがとうございました。受入農場の皆様、大変ありがとうございました。受入農場の皆様、大変ありがとうございました。

農業の国際競争力の強化が急務



2月2日、中標津町で根釧合同JA役員研修会が開催され、各関係団体等から約250名（当JAから16名）が参加しました。

前林野庁長官の今井敏氏が「今後の農政の展開方向について」と題して講演し、国内外の農産物マーケットの変化を視野に、農林水産業の国際競争力の強化が急務と強調しました。

長野県JA松本ハイランド前専務で、社会福祉法人・松本ハイランドの高山拓郎代表は女性参画に対する姿勢、JAの自己改革等について講演し、大変意義ある研修となりました。

平成29年度

JAくしろ丹頂 役員道外視察研修報告 ②

平成29年11月21～24日の日程で実施した福島県・栃木県への役員道外視察研修の報告2回目です。

◆11月23日（木）

【視察先3】全酪連酪農技術研究所（若齢預託矢吹牧場）
（福島県西白河郡矢吹町）

●酪農技術研究所の概要

ここは、昭和49年に酪農研修所として開設した。元来この施設は、福島県の酪農講習所として昭和22年に開所し、人工授精を中心に行われてきた施設である。その後、閉所したので全酪連が引き継いだ。昭和46年に、茨城県結城市に技術研究所の付属開発センターを開設し、昭和58年



研修風景

には、技術研究所付属開発センターをここに移転し一本化した。

今回、視察の若齢預託牧場は、昨年の4月に完成し1年半が経過した。追いつみ式の預託育成牛舎、導入時受入れの哺育牛舎ベン、自動哺乳機の哺育牛舎①、②、③の5つの施設で運営している。既設の牛舎は9牛舎あり、哺育育成から搾乳の試験まで、試験対象牛を全て飼養管理している。周辺に894aの自給飼料圃場を配置し、デントコーンサイレージ、イタリアンロールラップサイレージを作っている。自給飼料普及の取り組みで、1日1頭当たり30kgを給与、以前は18kgであった。

糞尿は、基本的に圃場還元で、固液分離の関係でスラリーは散布、固体は堆肥化し半分は敷料としており、処理はぎりぎり間に合っている。

牛群の構成は今日現在、404頭を飼養。若齢預託325頭、内哺育牛174頭、育成牛151頭。月間60頭を基本とし、4か月齢まで預かり240頭が基本ペースとなるが、分娩の変動により60頭牛舎に80頭入るスペースを確保している。試験牛は、経産牛39頭、内搾乳牛30頭、哺育育成牛34頭で全て自家産である。フィステル装着牛が3頭で、ルーメン第1胃に穴をあけ蓋をして飼料等の分解性に関する試験も実施。

従業員は26名で、研修職（獣医を含む）7名、現場で飼養管理担当16名、事務1名、管理2名。若齢預託は基本的に2～3名体制で作業を実施。ここは教育研修の場も兼ね備えており、全酪連の新入職員のうち8名が1年間実際に牛の管理の研修を行っている。

●全酪連 若齢預託矢吹牧場



熊本県にも同様に熊本牧場がある。代用乳（カーフトップEX）を使用し、強化哺育プログラムで管理している。



施設の外観

（哺育試験の概況）

供試牛は、自家産の雌牛で試験方法は、哺育プログラムのみを変更する。生まれた順番にランダムに「強化」哺育と標準哺育に振り分けする。離乳後の飼養管理は、スターター、育成飼料、乾草、全て同じ飼料を給与。「強化」哺育と標準哺育とも同じ牛房で初産分娩まで管理する。

搾乳牛の飼養管理は、「強

哺育育成試験結果

哺育プログラム	“強化” 哺育	標準 哺育	P値	“強化”－標準 の差
頭数	36	42		
初産分娩月齢 (ヶ月)	22.5	22.6	0.415	-0.1
初産分娩時体重 (kg)	591	575	0.029	16
305日実(期待)乳量 (kg)	9,521	8,865	0.099	656

化」哺育・標準哺育とも同じ飼養管理を実施。「強化」哺育」とは、子牛が本来もっている発育能力をフルに発揮させる飼料給与体系。1. 過肥に陥らせることなく、保育期からのフレームサイズの発育・発達を加速させる。2. 初産分娩時期の早期化。3. 正常な免疫機能の維持。4. 初産乳期乳量を高める可能性がある事、以上を実現する飼

養管理である。

●全酪連 若齢預託事業

集畜体制で生産者との連絡は、全てFAXを使用。集畜は毎週月曜日と木曜日の午前中の2回実施し、車輛は1t車と2t車の2台。範囲は100km圏内、高速道路を使用すると200km圏内まで可能で、生後3日齢から6日齢の子牛を原則無条件で集畜する。現在、預託されている牛のほとんどが、栃木県中心の牛で一部茨城県、群馬県の牛も集畜している。なお、福島県内の牛は福島県酪農協が近くの石川町に、自前の哺育センターを有し預託される。

導入時の管理は、蹄の消毒、毛刈り、体側（体重・体高・胸囲）、血液検査（蛋白質濃度・ゾーグロブリン濃度（Ⅱ初乳をしっかり飲んでるか）、サルモネラ菌検査、鼻腔スワブ検査を実施。集団感染を回

避するため、ビタミン剤を給与。また、哺乳ロボットにおける群管理も同様である。北海道の預託必須条件として、ワクチン（カーフウイン6の生ワクチン）を投与し、更に呼吸器疾患の予防のため煙霧消毒も実施。初産牛から生まれた子牛の導入時の体重は、経産牛から生まれた子牛より体重が軽い。また、血液検査の血清中総蛋白質濃度およびゾーグロブリン濃度も同様に低いので、小さな子牛に対する諸対策は十分に講じている。

免疫移行不全に対する取り組みとして、1. 施設洗浄の徹底（多種多様な細菌を減らす）、導入ペンは毎回洗浄、哺乳ロボット牛舎も高温高圧洗浄し消毒石灰乳塗布する。2. 高蛋白質代用乳の給与（CP：28%）、酪農学園大学の小岩先生の試験結果で、胸腺スコア3（太い）だと免疫力がアップする。3. 預託農家

への情報提供（フィードバック）、若齢預託子牛野帳を配布する。

導入ペンに一頭ずつ子牛を入れ、接触しない様に管理している。バケツ哺乳を朝夕2回（1.5ℓ×2）与える。高さは75cmで、哺乳ロボットの乳首の高さに合わせて、ロボット用に訓練させている。（写真赤丸バケツ部分）哺乳ロボットに移動する子牛は、1回1.5ℓを息継ぎすることなく飲むこと。出来なければ、哺乳ロボットで攪拌したミルクを飲むことが出来ないためである。毎日一回、子牛の健



職員手作りのペンと訓練用バケツ



牛舎内

康状態を把握、便の状態をチェックし、尻尾や尻等をブラッシングする。この方法は哺育試験で常に実施されており、子牛の異常の早期発見に繋がっている。

哺乳プログラムでは、導入時と離乳時に体測を実施し、離乳時（生後56日齢）で2倍の体重を目指し、導入後60日間を哺乳期間としている。スターターは飽食を基本とし、育成TMRは少量を給与。育成牛舎でもTMRの給与で、牛群の均一した発育を目指す。将来はサイレージを混合

したTMR給与で、北海道の預託農場へのスムーズな移行を目指す。

育成牛のTMR設計は、ターゲットグロウスシステムに基づいて発育指針を設定。生後3日齢から6日齢までに導入した、若齢預託牛の全体平均日増体880gの栄養設計を目標とする。データでは700g以下や1kg以上の牛もいるが、フリーストール牛舎の牛は大型化し、つなぎ牛舎の牛は小さめの牛となっている。大型の牛はより多く食べ、小型の牛はそれなりに発育する様に食べる。そうすると同じ月齢では同じ濃度で食べるので、体型の差はカバー出来ると思われる。

◆11月24日（金）

【視察先4】全酪連那須青木TMRセンター（栃木県那須塩原市）

●TMRセンターの概要

生産能力は、月1、500t。施設の特徴は高低差を利用した、①作業単純化及び脱電力化を図る。（施設内高低差2.9m）、②ライン設備「ゼロ化」によるメンテナンス箇所削減を図る。③ミキサー搬出時間の短縮による製造能力の最大化が図られている。（仕切りによる4製品連続製造が可能）、④リフトやトラクターを動力とした作業の単純化を図る。（プロの作業員は不要でマニュアル化されている）、⑤ラッピング包装に



高低差を利用



よる保管リスクの低減（製品
の3割がバラで7割がラップ
製品。水漏れやカビ防止で保
管場所は野外。）

製品の特徴は、①縦型ツイ
ンオーガにより短時間で均一
に混合する。②短時間混合に
より飼料の物性を維持する。
（製品の排出時間の短縮）、③
オーガナイフを追加し粗飼料
物性を維持する。（当初14本
のナイフが標準装備され、6
本を追加し20本で稼働）、④
ラッピング包装による輸送保
管時の分離を低減（県外や長
距離輸送に対応）、品質の安
定化を図る。（腐敗等の防止）、
⑤今後の課題として、地域で
生産された自給飼料の利用
（デントコーンサイレージ、
ホールクロップサイレージ
等）、⑥ビール粕等の食品副
産物を利用した。（ここはほ
こりが物凄く、苦慮していた。
従業員の健康等も考慮し、
ビール粕を10%程混ぜてほこ

り対策を講じた。その結果、
ほこりの抑制と嗜好性の向上
で成果を上げた。）10月現在
の出荷状況で、出荷量は1、
080t（内バラ291tを
6戸に配送）。銘柄数は29銘
柄（内個人銘柄20）。出荷戸
数は県内が70戸、県外で2県
（宮城県、神奈川県）である。

北海道のTMRセンターと
はタイプが違う。栃木県のT
MRセンターの歴史は20年位
で、宇都宮方面にあるTMR
は完全ドライで、自給飼料や
ビール粕等を全く使用しない
TMRである。

栃木県内では商系も含め、
7〜8カ所TMRセンターが
あるが、差別化を図るため完
全ドライを始めた。試験的に
ビール粕を入れて少々違った
毛色のTMRを作ろうと努力
し実験を重ねた結果、出来た
製品は農家の受けが良かった。
（ほこり対策も含めて）
脱電力化のためベルトコン

ベアー等の施設が無い。ミキ
サーから2分程で出され、
ラップは別作業方式なので他
のTMRセンターとは違い、
より効率的に製造するために
作られている。

製品の流通は、この場での
置き場渡しである。酪農組合
が自分達で運送業者を手配
し、ここまで取りに来て運ん
で貰う。運賃は酪農組合が直
接運送業者に支払う。運ぶ距
離が遠くても近くても、昔か
らの慣習で一律運賃である。
ここはTMRセンターだ



ラップ後、屋外での保管状況

が、配合飼料の工場としても
認められており、ビール粕の
水分を除いた92%と乾草を含
めた全てが、安定基金の対象
となっている。人手不足の中、
省力化を子牛を預託する育成
の部分とエサの部分、後は畑
の部分でコントラクターの3
つが焦点となり、TMRセン
ターが上手く活用され軌道に
乗った。

今の若い農家の人達はライ
ン等SNSの拡散により、T
MRセンター等の営業推進活
動を行わなくても宣伝効果が
絶大である。TMRセンターの
飼料設計は担当職員5名全員
が、飼料設計ソフトを使って
設計しており、見直しも都度
行っている。その設計データは、
組合の指導課や購買推進担当
者にも渡し共有している。

〈報告者 金融共済部長

石動 稔〉



写真1 十分な広さが確保された分娩施設

① 十分な広さがある

仔牛の摘出場所の確保や牛同

1 分娩時に望ましい施設

しかしながら、分娩後60日以内の淘汰や仔牛の死産は、決して少なくないのが現状です。今回は、それらを減らすための分娩時の施設や管理について考えましょう。

分娩の施設や管理について考えましょう！

分娩は、親牛にとつてはその乳期のスタートであり、出生仔牛にとつても一生涯のスタートです。

士の競合関係の軽減のため、十分な広さ（15㎡／頭）を確保しましょう（写真1）。

② 寝起きがしやすい

分娩直前は胎児の体位を整えるのに、頻繁に寝起きします。そのため、寝起ききの動作を妨げないことが重要です。
・しっかりと蹄をかけるための床面、特に冬期間は床面が凍結しやすいので、凸凹が無く、滑りにくい環境を作りましょう。
牛床マットを敷き逆子が減ったという報告もあります。

・繋留する場合は、チェーンを



写真2 寝起きしやすく、スペースも確保されている。水槽の数も多い。

③ 衛生的である

仔牛は免疫を持たずに生まれてくるため、出生場所を衛生的に管理する必要があります。
・床面への消石灰の散布
・20cm程の厚さの敷きわらを入れ乾いた環境をつくる
・尿溝は一時的に蓋をする
・除ふんや敷料の投入が容易に行える作業性の確保

長めにとつて寝起きを妨げず、ゆったりと寝られるスペースを確保しましょう（写真2）。

④ 観察が容易に行える

難産、逆子など、分娩進行中に気付けると防げる死産もあります。

分娩に立ち会えるよう日常の作業動線の中に分娩場所を設けたり、最近では分娩監視カメラや分娩徴候を発信する機器を導入する農場が増えていきます。

夜間の観察については、農場内で役割分担をしましょう。

2 分娩房への移動タイミング

最近の研究では、分娩予定日の9～2日前までの移動は分娩

後の調子が悪くなるということが分かってきました。その時期を外した移動を心がけましょう。

また、急激な飼養環境の変化もストレスとなります。分娩10日程前から予め環境に慣らすか、分娩徴候が見られたら、同じ群内の分娩スペースに移動させ、ません棒などで仕切って分娩させること等を検討しましょう。



写真3 乾乳後期群に設置されたブラインド式の分娩房

〔事例〕乾乳後期群の中に入り自由な目隠しスペースを作り、分娩時には自らそこを選び分娩を迎える飼養方法も出てきています。移動や環境変化のストレスが軽減されます。

分娩時の施設整備と適切な管理により、良いスタートを切りましょう。



JA北海道大会実践フォーラム パネルディスカッション

テーマ「協同の力で実現する新規担い手倍増に向けて」

「協同の力で実現する新規担い手倍増に向けて」と題したパネルディスカッションの内容を連載でご紹介します。



小林 国之氏

北海道大学 准教授

本日のコーディネーターを仰せつかりました北海道大学農学部的小林と申します。昨年に引き続き非常に大きなテーマであります「新規担い手倍増」ということで、皆さんとディスカッションを進めたいと思います。それでは、パネリストの皆様にご自己紹介も兼ねまして一言ずつ頂きたいと思います。

宮下 道男氏

栗山町農業振興公社
就農支援アドバイザー

ただいま紹介を受けてきました宮下でございます。私は農業改良普及員として40年間勤務後、道の担い手育成センター、現在は栗山町農業振興公社で新規就農者のアドバイザーを



しております。販売農家戸数が4万戸足らずにまで減ってしまった今だからこそ、このフォーラムの意義というものを強く感じております。今日はよろしく願います。

近江 正隆氏

株式会社ノースプロダクション
代表取締役

株式会社ノースプロダクションの近江正隆と申します。私は東京都に生まれまして、19歳の時単身で北海道に移住しました。現在十勝地域で約400戸の農家さんと都会の高校生を受け入れるホームステイ事業や、道の青年部さんのお手伝い、そして地域・教育行政の方とも連携しながら、地域と学校が繋がる様々なお仕事のコーディネートをしております。本日はどうぞよろしく願います。



齊藤 和弘氏

北海道農協青年部協議会
顧問

ご紹介頂きました齊藤です。私は北海道農協青年部協議会で平成26、27年度の2年間会長を務めました。今日、組合員は僕一人なので、その点か



らお話もしたいと思います。よろしく願います。

中瀬 満氏

JAけねべつ 参事
(事例発表者)

JAけねべつの中瀬です。今日は我が農協の事例発表をさせて頂きます。このフォーラムを通して、地域の担い手について助言を頂きながら、今後のJAの取り組み強化に繋げていきたいです。本日はどうぞよろしく願います。



石田 健一氏

JA北海道中央会 参事

JA北海道中央会の石田でございます。今日は皆さんと新規担い手倍増という目標に向かって色々共有できればと思いますので、よろしく願います。



小林 准教授

では、パネルディスカッションの前半は後継者支援について、議論をしていきたいと思ひます。まず皆様には、JAけねべつの事例を聞いた感想、さらにはご自分の活動と絡めて一言ずつご発言を頂きたいと思ひます。

宮下氏 まず組合員全戸

のアンケートをとり、それを7つの地域別の課題に整理され、地域の組合員が課題に対して自ら担い手育成のための地域活性化基金を積み立てたと

ころが他と違うやり方だと思いました。

私どもの栗山町農業振興公社では、青年部や4Hクラブのリーダーを終えた方を対象に、将来のJA幹部になって頂くべく未来塾といった塾を開き、また女性部では、従来の生活改善グループを発展的に改称し、女性塾として活動もしています。こうした取組みが将来の担い手づくりに結び付くと思います。

小林准教授 栗山は農業振興公社で、経営者育成やフレミズの方を対象のプログラムをやっていますね。

アンケート結果を地域別に落とし込み、課題を見つけそれを自分たちの地域の課題ですと示すねべつのやり方は、大変な面もありませんでしたか。



中瀬参事 事務局で勝

手に、50歳で後継者がいない方は10年後に休農すると仮定したら、一部の組合員の方からお叱りを受けたりはしまし



たけれども、地域の土地の将来は地域で考えて頂きたいという思いから、地区別に歩いて何とか説明をしました。

近江代表 後継者対策

は、いる人が跡を継ぐのが前提だと思います。

その中で「この家に生まれたのだから継ぎなさい」というのではなく、子どもの時から、

親の仕事を見て、後を継ぎたい、農業が好き、地域に住み続けたいと思ってもらえることが大事です。それは家庭だけでなく、例えば先生が学校で「お前の父さんすごい仕事してるな」とか、その地域の魅力を喋ると、子どもたちも当たり前と思っていた親の営みから農業の魅力を感じられます。これが何よりの後継者対策に繋がるのではないかと感じました。

小林准教授 齊藤さんはまさに後継者ですが、今のお話も含めて一言頂けますか。



齊藤顧問 一歩踏み込ん

で、地域を残すための会議体を作られたというJAけねべつさんの取り組みは、とても素晴らしいものだと思います。

後継者支援の話では、今年、私の家でも地元



の小学校の先生を招いてホームステイを行いました。その後学校に行く、教頭先生がうちの子たちに「お前の父さんすごいな」と話してくれました。最初は食育の延長線上だった農村ホームステイは、進めるうちに地域との繋がりが、子どもたちへの教育という面に重さがあると感じました。ホームステイで受け入れた先生から子どもたちに地域や農業の素晴らしさを伝えてもらい、子どもたちがこの仕事をやりたいと思える環境をつくる必要があります。

小林准教授

ホームステイには担い手の育成にも繋がる部分があるようです。次に石田参事に伺いたいのですが、なぜこの「新規担い手倍增」の目標を掲げたのか、そこに込めた想いをお聞かせください。

石田参事



道庁の調査では、現在北海道では、1年間で後継者となる方あるいは新規就農される方が600人程います。1人の担い手が40年間働けると仮定する

と、現在の4万戸の担い手を維持するには現状の2倍近くとなる年間1000人程の新規就農者が必要なのでこの目標となりました。平成31年には道全体で685人の担い手を確保したいという数字であり、目標に届きませんが、現状より担い手を増やすべく、各JAでも目標を立て、取組んで頂いています。

JAグループ通信

JAグループの連合会・中央会の活動内容を紹介します。

JA北海道大会決議事項の実践やその時々の特ピックスなど、組合員の皆様に定期的にお伝えします。

各団体の詳しい取り組み内容はWEBサイトをご覧ください。

JA北海道中央会

北海道大学経済学部と北海道大学農学部において、学生向け授業の一環として「北海道農業の概要と、それを支えるJAグループの役割」について講義を行い、合わせて300名近くの学生の参加がありました。

「安定供給には、協同組合の形式が適している」「JAの存在意義を改めて知ることでできた」など、JAの名前しか知らなかったという学生の皆さんにも、JAグループが果たす役割を理解して頂きました。今後も、農業・JAの理解者を増やす「サポーター1550万人づくり」に向けた情報発信を着実に進めて参ります。



JA北海道信連

昨年12月、地域貢献活動の一環として、JAバンクのキャラクター「ちよリス」がサンタクロースに扮し、札幌市近郊の幼稚園等8カ所のクリスマスイベントに参加しました。イベントでは、野菜あてクイズやダンス等のレクレーションのほか、ちよリスから子供達へハンドタオルをプレゼントしました。子供達はちよリスのほっぺを撫でたりと、自由に触れ合い、イベントを楽しんでいました。



ホクレン

北海道産小麦の普及拡大

を目的に、札幌駅前通地下歩行空間の広場で、「2018パンマルシェ」を開催しました。道内の人気や評判のパン屋16店が出展し、北海道産小麦を100%使用したパンのほか、小豆や黒豆などの道産豆を使用したオリジナル豆パンなどを販売。閉店以前に売り切れるほどの盛況ぶりでした。今後も、北海道産小麦の魅力やおいしさを広く知っていただけるようPRしてまいります。



JA共済連北海道

JA共済の「こども共済」が、「マザーズセレクト」を受賞しました。全国のママたちが「使ってみてよかった!」と思った企業や商品に投票し、表彰する「信頼と好感で選ばれる賞」です。ママたちからは「トップクラスの返戻率だから」「出産前から加入できて安心でした」等の声が寄せられました。



JA共済連北海道は、今後も安心と満足を提供に努めてまいります。



JA北海道厚生連

組合員ならびに地域住民の皆様、本会事業の積極的な啓蒙推進を図ることを目的として、広報誌「すまいる」を発行しております。年3回発行しており、様々な医療・健康情報を発信しております。



ホームページにもバックナンバーを掲載しておりますので、是非ご一読ください。

理 事 会 報 告

1月定例理事会 平成30年1月31日(水)

報告事項

1. 専決事項及び諸会議について
2. 各委員会・諸会議等について
3. 12月末財務状況について
4. 事業の実施処理状況について
5. 平成29年度決算見込みについて
6. 理事に対する資金の貸付報告について
7. 個人情報保護計画にもとづく実施状況の
監査結果報告について

付議事項

- 議案第1号 宮農振興資金の貸付について
- 議案第2号 融資の承認について
- 議案第3号 固定資産の取得について
- 議案第4号 固定資産の改修について
- 議案第5号 固定資産の処分(解体)について
- 議案第6号 諸規程等の一部変更について

その他協議事項

1. 組合員の農業に係る現況照会について
2. 当面の業務日程について

■平成29年度	生乳生産実績(1月)			
	月計乳量(kg)	1月前年比(%)	累計乳量(kg)	累計前年比(%)
JAくしろ丹頂	8,483,655.7	101.1	82,729,067.6	98.2
鶴居地区	3,036,340.7	104.6	29,696,964.1	102.5
幌呂地区	2,257,318.5	99.6	22,009,087.4	97.8
白糠地区	1,737,835.4	99.4	16,930,187.4	97.0
音別地区	1,452,161.1	98.6	14,092,828.7	91.8
管内計	45,099,368.2	102.0	442,085,837.1	98.9
(前年度管内計)	44,199,627.6		447,150,303.0	

大変お世話になりました。



片 潤 幸雄

(株)ジェイエーコムズ(出向)

この度、平成30年1月31日をもちまして、釧路丹頂農業協同組合を定年退職いたしました。

平成13年5月1日、旧幌呂農協に入組以来、約17年間整備士として仕事に専念出来ましたのも、組合員の皆様、役職員、関係機関の皆様に支えられての事、心から感謝しております。私の持っております技術をいかし、組合員の皆様と接する事が出来たのが、私の財産となりました。平成から時代が変わる時が近づいておりますが、後世に私の技術を引き継ぐ事が出来ればと思っております。

2月からは(株)ジェイエーコムズに勤務致す事になりましたので、今後とも変わらぬご指導ご鞭撻を賜りたくお願い申し上げます。

末筆ではございますが、釧路丹頂農業協同組合の益々のご発展と、組合員ならびに役職員の皆様のご健勝とご多幸を心からご祈念申し上げ、お礼の挨拶とさせていただきます。

長い間お世話になり、ありがとうございました。

編集後記
EDITOR'S NOTE

□役員道外視察研修報告を2回に分けて掲載させて頂きました。福島県の酪王乳業株式会社が東日本大震災で放射性物質の問題などを乗り越え、売り上げを徐々に回復させ現在に至るまでの苦労。大震災で被災酪農家を雇用し県内酪農の復興・支援等を目指すミネロファーム。全酪連若齢預託牧場での子牛が本来もっている発育能力をフルに発揮させるための強化哺育の取り組み。全酪連那須青木TMRセンターが上手に活用されている事例など、自分は実際視察に同行させて頂いたわけではありませんが、大変勉強になる研修内容であると強く感じました。